



菅波 茂

NGOとはなんぞや。欧米からの輸入概念である。直訳すれば非政府組織。別訳すれば非営利組織。

我訳すれば民間ボランティア団体。目的は教育、医療、環境、人権など様々。その規模も数人から数万人の団体まで様々。活動範囲によって国際NGOとローカルNGOがある。国際NGOは「ミッション」のもとに世界中を駆けめぐる。ローカルNGOは「国内で

「生活向上」のためにがんばっている。いずれにしてもNGO概念の基本は個人ボランティア活動の集合体である。「NGO」の概念はいつ日本に輸入されたのか。知ります。ただし、「NGO」と「ボランティア」が日本で通常概念となったのは一九七八年のカンボジ

ア難民発生以来。その概念は未だすべて解明せず。最近の世相はボランティア活動せざるもの人に非

ず。ボランティアの概念が脅迫的になりつつある。げに恐ろしや。脅迫観念が世

「NGO」とは

一九七八年以前の日本社会にボランティア精神なしや。答えて曰く。個人ボランティアの概念なし。代わりに売名行為という中傷的概念

日本には真にボランティア精神なしや。答えは否。では何ぞや。団体ボランティアである。しつこく

問う。団体ボランティアとは何ぞや。地域コミュニティ各種団体である。即ち町内会、婦人会、子供会、愛育委員会などである。明白。その基本精神はなんぞや。「相互扶助」である。明解。

一九九四年十月二十日―二十六日。国際貢献NGOサミット開催。二十二日にアジア、アフリカそして遠太平洋諸国三十二カ国のローカルNGO四十六団体による「岡山宣言」の採択。「緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク」がその骨子。その精神は相互扶助である。地方自治体は地域コミュニティ各種団体なしでは存在しえない。地方自治体の集合体が日本社会である。日本社会のキーワードは相互扶助精神である。「緊急救援と開発のための国際NGOネットワーク」の事務局は岡山である。岡山は日本社会の代表の立場になった。燃えろ！岡山（アジア医師連絡協議会代表・題字は筆者）